

ねこの口ひげ 広島県

むかし、おとなりの中国に、大きなとらがありました。

あるとき、とらは、海を渡つたむこうの日本というところに、きつねというけものがいるといううわさを聞きました。きつねというのは、からだは小さいけれど、なかなか知恵があつて、人間でも化かすほどで、この中国にもとてもそれほどの動物はいないということでした。

これを聞いたとらは、

「なに、いくらきつねがかしこくても、このとらさまには負けるだろう。よし、日本へ行って、力くらべをしてやろう」と、はるばる海をわたつて日本にやつて来ました。

とらは、きつねにいました。

「おまえは、日本で一番のけものじやそなが、わしと、力くらべをしないか」

きつねは、「それはとらさん、ようこそおこしくださいました。でも、わたしは、力くらべのなんのというほどの者ではございません」といいました。

それでも、力くらべをすることになつたので、とらは、

「むこうの長い竹やぶのはしからはしまで、どちらがはやくかけぬけられるか、やつてみよう」といいました。とらは、竹やぶを走るのが得意だつたからです。

にひきは、竹やぶのはしに行つて、一二の三で、かけだしました。

とらは、いつしょくけんめいに走りました。竹の間をすりぬけて、どんどん走りました。あと少しで反対側のはしに着くところで、いきなりきつねが現れて、

「やあとらさん。わしのかちだぞ」といつて、かけぬけました。きつねは、こつそり、もういつぴきのきつねにたのんでおいたのです。

そうとは知らないとらは、

「初めての所だつたから、よくわからなかつたんだ。もういつぺんやりなおそう」といつて、また走りだしました。こんどこそ勝とうと思つて、いつしょくけんめい走りました。もとの所まで来て見ると、またきつねが先に来ていて、

「やあ、とらさん。わしのかちだ」といいました。

とらは、ふしぎだし、くやしいし、「もういつぺん」といつて、走り出しました。けれども、また負けてしまいました。もういつぺん、もういつぺんと、何度も、何度もやりましたが、どうしても勝つことができません。とらは、弱つて、ふらふらになつてしましました。

「日本には恐ろしいけものがいる。こりやあ、かなわん。早く帰らないと、どんな目にあうかも知れん」

とらは、大急ぎで、中国に帰つて行きました。

とらは、帰つてからも、くやしくてたまりませんでした。そこで、自分によくにた小さいけものをこしらえて、自分の口ひげを三本やつて、日本に送りました。

それから、日本には、「ねこ」というものがいるようになったのです。ねこの口ひげの中には、長いじょうぶなのが三本あるのは、とらからもらつたものだそうです。

もうしむかしけつちり、こう